

手作り運動会**みんなの満足、力を出し切った運動会！**

(人気種目「紅白玉入れ」)

先週は、マイアミ特有の青空が一面にひろがり、爽やかで絶好の運動会日和となりました。朝の全校朝礼は、もう待ちきれない様子で「今日は運動会があります」の言葉に歓声を上げていました。会場に移動し、12時20分の開会式まで、広いグラウンドのあちこちでご家族と一緒に昼食をとる子どもたち、「早く始まらないか」待ち遠しい様子でした。

開会式で私は、マイアミ補習校の運動会が、二つの大きな「つながり」がある手作り運動会であることを話しました。一つは、上級生から下級生への演技指導です。中1・小6の応援合戦・中2のラジオ体操・中3の「ソーラン」の演技は、数少ない練習時間を通して、下級生にしっかりと伝えることができ、補習校の伝統として根付いたものになってきています。二つ目は、この運動会が、計画の立案から準備・進行に至るまで全てが運営委員会や保護者の手で成り立っており、ボランティア高校生・大学生の協力を得ながら、「大きなつながり」の中で運動会が迎えられていることを話しました。

練習時間が取れない補習校にあってぶっつけ本番となる「紅白玉入れ」や「綱引き」は、今年も力が入る大一番を随所で見せてくれました。元気いっぱい必死で頑張る様子に応援する大人の方が興奮気味でした。また、「かりもの競争」で、生徒と保護者のカップルが仲良く、ゴールイン。今年は来賓の川原総領事もともに走られ、競技が一段と盛り上がりました。恒例の「二人三脚」は、親子で触れ合い走る姿が頼もしくもあり、おかしくもあり、私たちが大いに楽しませてくれました。圧巻は、子どもたちの一番人気の徒競走やリレーでした。歯を食いしばって走る姿に子どもたちの成長を感じられたのではないのでしょうか。あるお母さんのメールに「子どもたちが一生懸命走っている姿を見て、補習校のありがたさを改めて実感いたしました。子どもたちはまたひとつ、貴重な体験と、楽しい思い出を増やしたことでしょう」とありました。その通りだと思います。

紅白の競技は、赤組の優勝となりましたが、子どもたちは、力を合わせることの大切さ、競いあい、励まし合うことの素晴らしさを学び、自分の力を出し切ることのすがすがしさを学び、成長できた運動会になったのでは、と思います。保護者の皆様方、お疲れ様でした。また、ボランティアとして競技の準備に奔走していただいた大学生・高校生の皆さんにも厚くお礼申し上げます。今年も運営から競技まで、マイアミ補習校は「大きな一つの家族」を実感した運動会となりました。



(全校生徒の「ソーラン」演技)